

サイパン&グアム有給ホテル・インターン

プログラムの 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日本人観光客の多いサイパンやグアムのホテルでは日本人のインターン生を積極的に採用しています！ ◆ アメリカ本土のホテルと比べ、英語力条件が緩やかですが、職場は英語環境なので、実践で英語を習得！ ◆ 基本的に全てのポジションをローテーションで体験できるので、ホテル業務を効率的に習得できます！ ◆ 基本的に部屋・食事・手当が支給されるので、参加費用のみで充分生活できます！ 		
参加条件	① 年齢:20歳~37歳 ② J-1ビザの参加条件に基づき、学歴(アメリカは不可)と職歴の条件は次のいずれか。 <ul style="list-style-type: none"> ● J-1 インターン:ホテル・ホスピタリティ専攻(短大・大学)の在学学生。 ● J-1 インターン:ホテル・ホスピタリティ専攻(短大・大学)の新卒生(卒業後1年以内の渡航)。 ● J-1 トレーニー:ホテル・ホスピタリティ専攻で卒業後にホテル・レストランで1年以上の職歴のある方。 ● J-1 トレーニー:高卒または短大・大学で他の専攻の場合は、ホテル・レストランで5年以上の職歴のある方。 * 英語での接客サービスに問題のない英語力があり、過去1年以内にホテル・レストランでの職歴がある方。 * 専門学校卒及び他の専攻でもホスピタリティ/ツーリズム/マネジメント系科目を履修している方はご相談ください。		
参加時期	シーズンにより各受入先の採用計画が異なりますが、希望する時期に合わせて受入先をリクルートします。		
参加期間	基本的には12ヶ月間		
研修先一例	HILTON Guam Resort & Spa タモン湾を臨みプライベートビーチを持つグアム屈指の最高級リゾート・ホテル。 Pacific Islands Club Saipan & Guam 大小様々なプール等の施設が充実、マリンスポーツを楽しみたい方向け。 LOTTE Hotel Guam 海辺の一等地に立地し、タモン地区の美しい景観を望む素晴らしい5つ星ホテルです。 Saipan World Resort ミクロネシア最大級の巨大レジャープール(Wave Jungle)が人気。 FIESTA Resort & Spa Saipan ショー、スパ、アクティビティが充実したサイパン屈指の高級リゾート・ホテル。 HYATT Regency Guam ハイアット・グループがグアムで展開する高級リゾート・ホテル。		
ポジション	*フロント *ゲスト・サービス *レストラン *アクティビティ部門 *ハウス・キーピング *スポーツ施設 等 ※ホテル内のいろんなポジションをローテーションで経験することができます。		
就労条件 待遇	週40時間勤務/シフト制(深夜・早朝勤務有り)/ポジションはローテーション > 宿泊:従業員宿舎(基本的にシェア) > 食事:毎日3食支給 > 手当:月 US\$600.00~US\$800.00(ホテルにより異なる) +チップ		
プログラム費用	DS-2019 費用&US 健康保険料	J-1 ビザ取得費用	合計
¥250,000	¥330,000	¥70,000	¥650,000
OPT インターンシップ手数料		¥160,000	
費用に含まれるもの ① 書類選考/履歴書等各種応募書類作成 ② ホテルのリサーチ及び受入れ交渉/ホテルとの面接の設定 ③ トレーニング・プランの作成 ④ DS-2019 費用:ビザ・スポンサー承諾書類作成/期間中のビザ・スポンサー料 ⑤ US 健康保険料(12ヶ月間) ⑥ 渡航前サポート/出発前オリエンテーション ⑦ ビザ取得費用:代行料(申請書類作成/ビザ諸費用支払い/面接予約)・ビザ申請料・SEVIS 費用 費用に含まれないもの ① 航空券代:ホテルによっては支給してくれるところもあります。 ② OPT インターンシップ:海外旅行保険料及び就労許可申請料			
手続きの流れ	1. 書類選考:①日本語履歴書 ②日本語職務経歴書 ③英文履歴書 ④証明写真 ⑤パスポートのコピー 2. 書類選考合格⇒申込書の提出及びプログラム費用のお支払い 3. ホテルとのスカイプ面接⇒合格⇒インターン契約書にサイン 4. DS-2019 費用・健康保険料・ビザ費用のお支払い⇒トレーニング・プランの作成⇒DS-2019 発行手続き 5. J-1 ビザ面接⇒約1週間で受領します。 6. 渡航手配:航空券及び海外旅行傷害保険 7. 出発前オリエンテーション 8. 出発⇒サイパン・グアム空港にて出迎え⇒宿舎にチェックイン 9. ビザ・スポンサーへのチェックイン 10. ホテルでのオリエンテーション⇒インターン開始		



サイパン ホテル・インターン体験談(以前のビザ制度で参加された方です)

タイトル	「初めて実家を長期で離れた行き先は、サイパン。島は小さいが得るものは大きい！」
参加者	40歳 女性(ホテル経験者)
インターン先	Aqua Resort Club

■出発前に不安でも、開き直る気持ちに助けられました。

日本から、また実家からも長期で離れたことがない私が、不安を抱えつつも「サイパンに行こう」と決意しました。もちろん不安は大きく、英語が通じるかどうかが最大の関心事でした。英語には自信がなく、コミュニケーションが取れるかどうか心配だったのです。もうひとつの心配事は、生活面です。全く生活のイメージができないため、何を準備すればよいのか迷いました。自分でもサイパンの情報を調べてみましたが、観光情報ばかりで、日本と異なる島国でどのような生活になるのか、想像できませんでした。

インターンシップの面談時に、現地ホテル「アクアリゾートクラブサイパン」の担当者から「日本のようにあちこちにコンビニがある訳でもなく、医療機関はあっても医療が進んでいる訳ではない」と聞きました。ホテルからのアドバイスは、インターン生に最初に大きな期待をさせないためではないかと、今となっては心遣いがかかります。医療については、持病がないため何とかできると思いましたが、食べ物や生活の不便さについての不安は、渡航前にしばらく続きました。

しかし、ある時に「行けば何とかなる！」と思って開き直り、日本の食材を準備することで、出発前に気持ちが落ち着きました。ふりかけ、アルファ米などのドライフード(災害時用の食料品)、しょうゆ、インスタント味噌汁、などなど…。

サイパンに着くと、最初は日本との違いに少しカルチャーショックがありましたが、サイパンのお店で売られている食材を見ていると、不自由なことではなく通常の生活がすぐに始まりました。「杞憂」ということでしょうか、「案ずるより産むが易し」でしょうか。

■様々な国からの来島者により、各国の事情を知るにも良い機会でした。

カリキュラム上は、通常ホテル内の業務をバランス良く研修することになります。私はサイパン渡航前に日本でホテルの仕事の経験があったため、ホテル側と個別に相談しF&B(飲食関係)の実習を行わず、フロント業務とハウスキーピングを集中して研修とさせていただきます。就業研修では、日本での経験を活かし、楽しめたと思います。

サイパンで感じたこととして、就業のスタイルに日本と大きな違いがあります。サイパンは契約社会だな、と感じました。それは、何に対しても書面やマニュアルがあり、業務に対して少しの曖昧さも残っておらず、すべて文章化されているからです。移民の国「アメリカ」の一旦を垣間見た感じ。その都度該当の書面にサインし、それらの内容を守ることが求められます。日本人の感覚とは違って、良いこと悪いことを何でも文書化してサインします。その文面に書かれた内容を守れない場合は、段階を経て処分されてしまうんですね。インターン生は、就業研修ですのであまり厳しく対応しなかったのですが、スタッフには通常の処分があるようです。

日本の感覚では、例えば「これを終わらせておけば後々楽になるから、今のうちに終わらせてしまおう…」と思う業務があっても、サイパンでは「もう時間だから…」と途中で終わらせないといけなく、という考えになります。業務の効率を考えると、やや疑問です。業務を文書化されサインすると、業務範囲が明確でやりやすいというメリットもありますが、「ついでにやっちゃおう」という日本の効率的な考えが受け入れられない社会に思えます。このような仕事のスタイルは国民性の違いですが、なかなか慣れない習慣でした。帰国する頃になって、ようやくその感覚に慣れてきました…。

他のインターン生やローカルの従業員の方と一緒に仕事をすることは、楽しかったです。フィリピン、ロシア、韓国の方もいらっしゃって、それぞれの国のことがよく分かりました。フィリピンの方が職場では最も多く、自国の話をしてもらいました。ロシアは、同じ大国でもアメリカと考え方が異なるようでしたし、個人的に旅行に行ったことのある韓国には、ますます興味が湧きました。寮で韓国人とルームシェアをしていたため、より深く韓国について知ることができました。様々な国の方と交流が持てるのは、移民の国、サイパンの魅力のひとつだと思います。

■サイパン島での生活は、何とかできるものですね。

島では、生活様式や考え方が異なります。また、日本出発前に「交通の便が悪い」と聞いていました。実際に、お店の品揃え(種類)、お店自体の数、その他すべてにおいて便利な日本と比較すると見劣りします。しかし、モノがなくても基本的な生活はできます。サイパンは日本のように「アクセク」したり気負ったりせず、逆にゆったり時間が流れています。そのような生活を日本で経験することは少ないと思います。精神的にもリラックスできるサイパンの生活スタイルは、今でも気に入っています。

夜遊びについては、サイパンではその種類も場所もお店の数も限られています。その点で退屈を感じる方もいらっしゃると思います。しかし、マリンスポーツなど、日本では日常体験できない遊びが多く、楽しむ視点を変えてみるととても良い経験ができるんですね。

ホテル・インターンシップでは、寮や職場の仲間と一緒に出かけたり、食事に行ったりと、仲良く暮らすことができました。一般に「海外では日本人同士がよく固まって行動する」などと言われるそうですが、サイパンではそのような雰囲気はありませんでした。

日本にいらっしゃって海外に興味がある方でしたら、ホテル・インターンシップを通じて日本とは異なるサイパンの良さを体験し、世界を広げる良いチャンスを得られると思います。

■帰国後、現在は進路を選定中です。

日本およびサイパンで経験したホテルでの接客業を、今後も続けていきたいと思っています。次にどのホテルで仕事をしようかと検討しているところ、サイパンのホテルからもお誘いを受けました。様々なホテルで条件や契約内容を比較検討して、次のステップアップに繋がりたいと考えているところです。

■最後に。

今回、ホテル・インターンシップに参加したことは、自分にとって明らかにプラスになりました。特に良い経験をさせてもらったこと、良い人間関係に恵まれたことは幸運かもしれませんが、それらはサイパン特有の良さかもしれません。機会があれば、またサイパンに戻りたいと思います。

出発前、ホテル・インターンシップでサイパンに行くことを母に伝えると、「何を言ってもきかないから…。行ってきなさい。」との言葉。このように口では厳しく心では優しく送り出してくれたのは、一番大切な母でした。その母に1年間日本から見守ってもらい、感謝の気持ちで一杯です。母には、日本から頻りに荷物を送ってもらいました。インターン生の中で、荷物を受け取る回数が一番多かったのではないかと思います。また、インターンシップで日本を離れることについては、「自分よりも母の方が心配だったのでは」と今となっては分かります。

渡航手配に関しては、急な渡航であったにもかかわらず丁寧にご指導下さったエージェンツの方の細かなフォローに、この場をお借りして御礼申し上げます。サイパンでは、ホテル・アクアリゾートクラブの方々や仕事の仲間に、大変お世話になりました。

またサイパン島を訪れ、皆様にお会いしたいと思っています。

Y.Y.



他のインターン生との懇親会風景

タイトル	「サイパンでのホテル・インターンシップで、大事なことを沢山学びました。」
性別	東京観光専門学校ホテル科 男性
インターン先	Aqua Resort Club

■どの国に行く場合も同じ不安があると、自分で割り切りました。
 東京観光専門学校(東京都目黒区)に在学中にリゾートの4ツ星以上のホテルという条件で働きたいとの想いから、サイパンのアクアリゾートクラブでの研修の機会に恵まれ、ホテル・インターンシップへの参加が実現しました。
 インターン生としてサイパンに渡航する前は、現地の生の情報が少ない上、自分にとって実感が湧かないことから、不安だけが大きくなりました。日本人以外のスタッフと一緒に働くことも、不安材料のひとつでした。また、英語でコミュニケーションが取れるかどうかという不安も、大きかったように思います。しかし、この気持ちは、どの国に行く場合も同じだと割り切って、インターンシップに臨むことにしました。

■ホテルでの就業研修では、多くのことを経験できます。
 ホテルでの研修内容は、フロント・オフィス、飲食(F&B)、ハウス・キーピングが主な業務です。私の場合は、その上に車を運転してお客様の送迎まで経験させていただきました。
 ホテルのマーケティング業務については、深い知識や経験が必要であり、インターン生ではカリキュラムに組み込まれていませんでした。研修の舞台であるアクアリゾートクラブは、ツアーのお客様だけでなく、長期で何週間も宿泊なさるお客様もいらっしゃいます。リゾートホテルでは、温か味や快適さをお客様が求めています。アクアリゾートクラブは、お客様との繋がりが非常に強く、アットホームな雰囲気のあるホテルです。日本のシティホテル特有の「固さ」がありません。私達スタッフにとっては、お客様のために何が出来るかを考え、行動できるホテルです。例えばバーベキューなどの夕食時に、世間話でお客様と親しくなる機会もあります。親しくなったお客様から、「なぜこのホテルで働いているのか？」という個人的な質問を受けることもありました。お客様に興味を持って接したことが、逆にお客様がスタッフである私に興味を持っていただけるようになりました。本当の接客の醍醐味が味わえる楽しいひと時だったと、今でも思い出します。
 ホテルでは、日本からのお客様とのコミュニケーションが大事であると感じました。日本人に対するサービスについては、現地のスタッフの方よりも自分の方がうまく対応できたと自負しています。

■北マリアナ大学キャンパスで英語研修を行います。
 元々サイパンに到着するまでは、英語が嫌いでした。TOEIC のスコアが、たったの235でしたし、英語を学ぶ必要性を頭では十分に理解していましたが、「嫌い」という気持ちのほうが強かったです。インターンシップは英語を学ぶことが中心の海外留学と違い、就業研修がメインです。そのためなのか、北マリアナ大学で英語を学ぶチャンスをいただいても、英語の勉強にあまり力を入れませんでした。
 しかし、学んだ英語を職場で使うため、ヒアリングには自信がついたことは、自分にとって英語力が向上したという実感があり、大きな収穫です。サイパンは、英語を勉強するというよりも「これが英語なんだ」と英語の特徴や本質を知ることができる場所だな、と感じています。
 英語の「勉強」というよりも、「英語とは何か」を知るには、日本から近いサイパンは最適な場所と考えます。帰国後に時々、知人等から「えっ？サイパン??」と訊かれることもあります。あまりサイパンがよく知られていないことに驚きであり、少しショックです。サイパンは、もっとその良さをアピールしてもよいのではないのでしょうか？
 北マリアナ大学キャンパスでの英語研修クラスは、各ホテルのインターン生が中心のため、韓国人や日本人が殆どです。そのため、英語研修だけでなく、北マリアナ大学キャンパス内で現地の大学生と交流する時間が欲しかったです。
 自分の英語力については、文法や語彙力が不足していると思っています。もっと勉強が必要だと、痛感しているところです。
 英語力の不足により就業研修中に英語が通じない時は、ボディランゲージも使いました。北マリアナ大学での英語研修を通じて、英語の必要性を実感することができました。
 今では、サイパン渡航前と違って英語にすごく興味があります。英語を好きになったことも、自分にとって大きなプラス面です。現在通っている東京観光専門学校のホテル科では英語が必須なので、自分から興味を持った英語に今後も取り組んでいきたいと思っています。

■「帰国後の進路は、旅館業」
 東京観光専門学校を卒業後は、岐阜県高山市、奥飛騨温泉郷にある実家の旅館「飛騨牛の宿」で家族と共に働くことを決めました。実家の旅館でのお客様に対しても、リゾートホテルを利用するお客様と同様にご要望を的確に捉えて、接客したいと考えます。インターンシップでの経験が通用するかを試してみたいですし、本質は通用すると思います。
 今回のホテル・インターンシップを通じて得た経験を、実家の旅館でフルに活かしたいと考えています。そういう面で、恵まれていると感謝しています。

■自分が変わったと思ったこと
 サイパンでのインターンシップを通じて、仕事に対する考え方、お客様へのサービスを職業にすること、お客様をいかにもてなし喜んでいただくか、その大切さや情熱などを身に付けました。
 もう1点は、国による考えの違いを学べたことです。ホテルでは、多国籍のスタッフ同士が共にチームワークで働いています。
 日本の固い考え方との違いも知ることができ、国毎に、「こういう風に考えているのか」と分かることができました。国による「考え方の癖」の違いのようなものでしょうか。これに分かるかどうかで、スタッフとのコミュニケーションの仕方が大きく変わります。
 サイパンでのインターンシップを通じて、サイパンが好きになりましたし、様々な国のことを知ることもできました。日本からもっと多くの方がインターンシップのチャンスを掴むことを望んでいます。
 今回のホテル・インターンシップを受講するにあたり、実家の家族の協力なくては実現しませんでした。また、ご理解をいただいた東京観光専門学校の高橋功一先生、アクアリゾートクラブの皆様にも御礼申し上げます。
 また、サイパンではお陰様で色々な方と知り合いになり、お世話になりました。現地旅行会社の担当者様などサイパンで沢山の方と仲良くなり、快適に生活ができました。あらためてお礼を申し上げたいと思います。